

強迫的な行動を引き起こす不完全感の測定法及び心理学的介入に関する研究の概観と展望

指方, 賢太
九州大学大学院人間環境学府

<https://doi.org/10.15017/6770662>

出版情報 : 九州大学心理学研究. 24, pp.31-40, 2023-03-07. Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :



強迫的な行動を引き起こす不完全感の測定法及び 心理学的介入に関する研究の概観と展望

指方 賢太 九州大学大学院人間環境学府

Obsessive-Compulsive Behaviors and Incompleteness: A Review of Measurements and Psychological Interventions
Kenta Sashikata (*Graduate School of Human-Environment Studies, Kyushu University*)

This review analyzed studies on measurement methods and psychological interventions for incompleteness—an underlying cause of obsessive-compulsive behaviors that can reduce treatment efficacy. The results showed three primary measurement methods: questionnaires, semi-structured interviews, and task-based measurement. In this study, we found a need to improve the questionnaire to measure incompleteness by adding items related to the perception, auditory, and tactile senses. Two studies identified the effects of a psychological intervention on incompleteness. Another two studies identified the negative effect of a psychological intervention on high levels of incompleteness. Factors influencing treatment effects on incompleteness were that the therapists were familiar with and could assess obsessive-compulsive behaviors caused by incompleteness. There was also the possibility that OCD participants had high harm avoidance—a motivation for obsessive-compulsive behaviors. Moreover, incompleteness may also have changed with changes in harm avoidance. Therefore, in future studies, it is necessary to assess both harm avoidance and incompleteness and to include bodily sensations, such as perception, auditory, and tactile senses.

Key Words: Incompleteness, review, measurement, Obsessive-compulsive disorder, Obsessive-compulsive tendencies

I. 問題と目的

強迫症／強迫性障害 (Obsessive-compulsive disorder) とは、強迫行為と強迫観念の両方もしくはどちらかの存在が認められている精神障害であり (American Psychiatric Association, 2013/2014), 世界保健機構 (WHO) により経済的損失, あるいは生活の質に関わる十大疾病の一つとされている (Murray & Lopez, 1996)。強迫症に近似した心理的特徴は健常者にも見られ, 強迫傾向 (Obsessive-Compulsive Tendencies) として検討されている (Nicholson et al., 2014)。

これまで強迫傾向及び強迫症は, 主に認知行動論的な立場から理解がなされ, 代表的なモデルとして Salkovskis (1985) のモデルがある。このモデルでは, 強迫観念そのものではなく, 強迫観念に対する誤った解釈が強迫症状を引き起こし, 不安の解消を目的として強迫行為に至ると理解されており, 治療法として曝露反応妨害法が有効であるとされる (Abramowitz, 2006)。しかし近年, 不安の低減を目的とした強迫行為とは異なるプロセスで強迫行為を引き起こし, 曝露反応妨害法の治療効果を低減させる「不完全感 (incompleteness)」が注目されている (Cervin & Perrin, 2021)。強迫症の中でも不完全感による強迫行為が主な場合, 典型的な不安による強迫行為と比べて日常生活により大きな支障をきたし (Reid et al.,

2009), 曝露反応妨害法の適用が難しいとされる (Foa et al., 1999)。さらに Coles et al. (2012) は, 強迫症の状態に至る際に重要となる要因を検討した結果, ストレスレベルの上昇に次いで, 不完全感の上昇の要因が大きいことを報告した。さらに, 強迫症を持たない健常群を対象とした研究から, 大学生の約 8 割が不完全感を体験したと報告されており (Ghisi et al., 2010; Coles et al., 2003), 臨床群だけでなく大学生などの健常群においても, 不完全感の存在が確認されている。そのため, 強迫症の発症要因の一つであり, 治療効果を低減させる不完全感に着目した検討を行うことは, 強迫傾向及び強迫症の理解や治療に対して有用な展開をもたらすと考えられる。

強迫現象における不完全感を初めて指摘したのは, Janet であるとされる (Pitman, 1987)。Janet (1903) は, 数年に渡って記録した 300 以上の強迫症患者のケースを検討し, すべての強迫症患者に共通して見られるものとして不完全感の存在を指摘し, この感覚は強迫症の最も基本的な要因であるとした。その後, 強迫症における不完全感は, Rasmussen & Eisen (1992) によって再び紹介され注目を集めるようになり, 多くの研究者によって研究がなされている。しかし, 「しっくりこない感覚 (Not Just Right Experiences: NJREs: Coles et al., 2003)」, 「Sensory Phenomena (Miguel et al., 1995)」, 「Incompleteness (Summerfeldt, 2004)」, 「Feeling & Knowing (Szechtman

& Woody, 2004)」など研究者によって使用される用語が異なり、定義も様々である。そのため、感覚現象の共通する用語や定義を見出すために研究がなされるようになった (Prado, 2008 ; Hellriegel, 2014)。

それらの中でも、どの定義が強迫症状の理解に有用であるか実証的に検討を行った研究として、Taylor et al. (2014) の研究がある。Taylor et al. (2014) は、これまでの感覚現象に関する定義を (1) 様々な疾患に共通するものとして広義に捉える定義 (例えば、Janet (1903) と、(2) 強迫現象に特異的なものとして狭義に捉える定義 (例えば、Summerfeldt (2004) や Coles et al. (2003)) に分類し、どちらの定義が強迫症状の理解に有用であるか検討を行った。その結果、広義の感覚現象は強迫症状よりも感情障害に共通して見られる一般的な苦痛 (general distress) との間に強い相関が得られた。一方、狭義の感覚現象は一般的な苦痛よりも強迫症状との間に強い相関が得られた。そのため、狭義の感覚現象について検討することで、強迫症状に特異的な特徴を明らかにすることができると考えられる。以上より本研究では、Taylor et al. (2014) による狭義的な定義に従い、不完全感を「自分の行動や意図、経験したことが適切に達成されていない、もしくは周りの状態が自分のもつ基準と合っていないという不快な感覚、すなわちしっくりこない感覚」と定義する。

近年不完全感に関する研究は多くなされているが (Davine et al., 2019 ; Schreck et al., 2021)、不完全感の測定方法は質問紙や半構造化面接など様々な種類が存在し、測定方法の違いによって不完全感と強迫症状との関連性に違いが見られる等 (Belloch et al., 2016)、一貫した結果が得られていない。そのため、不完全感による強迫的な行動に苦しむ人々の理解に役立っておらず、不完全感の有用な測定方法について明らかにする必要がある。さらに、近年曝露反応妨害法について、不完全感に効果が見られた研究と、そうでない研究が存在しているため (Cervin & Perrin, 2021; Coles & Ravid, 2016)、研究間の違いを検討することで、治療の有効な要因を明らかにすることができると考えられる。

以上より本研究では、不完全感の測定方法と有効な心理学的介入法について文献レビューを行い、不完全感に関して現在までに明らかになっていること、及び今後の研究課題について検討する。

II. 方法

本研究では、PRISMA (Preferred Reporting Items for Systematic reviews and Meta-Analysis ; 上岡ら, 2021) に基づき文献レビューを実施した。

検索キーワードは、不完全感の定義の文献レビューを

行った Hellriegel (2014) を参考に実施し、出版時期は 2022 年 5 月 1 日時点までを対象とした。日本語論文については、「医学中央雑誌」と「CiNii」、英語論文については「Pubmed」と「PsychInfo」にてデータベース検索を行った。キーワードは、不完全感について、日本語キーワードとして「不完全感」、「しっくりこない」、「まさにぴったり」を用い、英語キーワードとして「incompleteness」、「INC」、「not just right experiences」、「NJRE」、「just right」、「sensory phenomena」、「premonitory urge」、「yedasentience」、「feeling of knowing」、「sensory experiences」を用いた。また強迫について、日本語キーワードとして「強迫」、英語キーワードとして「Obsessive compulsive」を用い、これらの組み合わせ検索を実施した。

対象論文の適格基準として、2段階を設定した。第1段階では (1) 強迫における不完全感を取り扱っていること、(2) 出版された学術論文であること、(3) 英語か日本語で書かれていることであった。除外基準として、(1) 理論モデルやレビュー、メタ分析など、データの分析に重点を置いていない研究、(2) 病因、転帰、認知または生物学的な基礎メカニズムを探索しようとする研究、(3) 単一事例研究に基づく研究を除外した。第2段階では、測定方法と心理学的介入法のそれぞれに適格基準を設定した。まず不完全感の測定方法については、不完全感の測定を行っているすべての研究を対象とした。続いて不完全感の心理学的介入法については、不完全感の測定を行っており、不完全感に介入を実施した研究を対象とした。

III. 結果

1. 対象論文の選定

文献検索の結果、計 593 件の研究が収集され、PRISMA (上岡ら, 2021) による手続きに従い論文を選定した (Fig.1)。まず重複した論文を除外し、タイトルとアブ

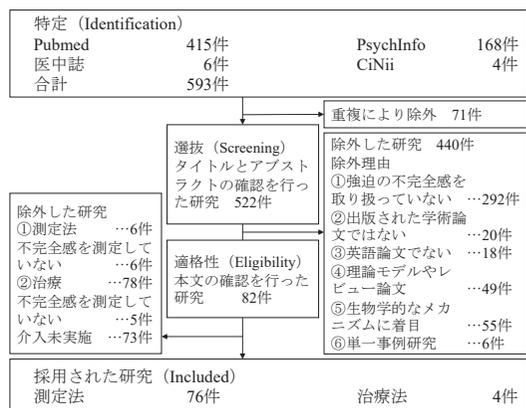


Fig.1 文献選定のフローチャート

ストラクトをもとに選定した結果、第1段階として計82件の研究が抽出された。抽出された論文数を年代別にみると、1999年～2006年で10件、2007年～2014年で30件、2015年～2022年で42件と増加傾向が見られた。続いて抽出された論文に対して、測定方法と心理学的介入法のそれぞれの適格条件をもとに選定を行った。その結果、測定方法については76件、心理学的介入法については4件の研究が抽出された。

2. 不完全感の測定

不完全感の測定法として、短縮版や翻訳版など複数のバージョンがある場合は1種類としてカウントした結果、使用されていた測定方法は計22種類であった。測定方法については、質問紙が9種類と最も多く、次いで半構造化面接による測定が8種類、課題を用いた測定が4種類であった。

(a) 質問紙による測定

質問紙について、全9種類のうち、臨床群を対象としたものが2つ、健常群を対象としたものが4つ、臨床群と健常群の両方を対象としたものが3つであった (Table 1)。

最も使用されていた尺度はNJRE-QR (Coles et al.,

2005) であり、抽出された研究全体の内35.53%の研究が使用していた。NJRE-QRは、従来強迫症患者において報告されてきた不完全感について、健常群の不完全感の実態を明らかにするため開発された。まず、不完全感に関する例文を10提示し、それぞれの体験を過去1ヶ月間に体験したか尋ねている。この尺度は、臨床群でも使用され (Coles & Ravid, 2016)、原版である英語版の他に日本語版 (高田, 2012) やスペイン語版 (Carrasco & Belloch, 2013)、イタリア語版 (Ghisi et al., 2010) が存在し、多くの国で翻訳・使用されていた。次に多く使用されていた尺度はOC-TCDQ (Summerfeldt et al., 2014) であった。OC-TCDQは、測定対象として強迫症患者だけでなく、健常群も含めて強迫症状の動機を測定するために開発され、抽出された研究全体の内28.95%が使用していた。OC-TCDQでは、強迫的な行動の動機として、不安障害に共通し、予期不安や脅威および害への過剰な回避である危害回避 (Harm Avoidance) と不完全感の2つを仮定し、各因子10個ずつの計20項目に回答を求める。この尺度はスペイン語版 (Carrasco & Belloch, 2013) やドイツ語版 (Ecker et al., 2011) が開発され、多くの国で使用されていた。

Davine et al. (2019) は、これまでの質問紙は過去に

Table 1
不完全感尺度一覧 (質問紙)

No.	著者	尺度の名称	尺度の内容	使用数	調査対象
1	Coles et al. (2005)	Not Just Right Experiences-Questionnaire-Revised (NJRE-QR)	不完全感の例文を提示し、体験の有無尋ねる。その後、最近経験したのものについて頻度、強度、即時ストレス度、遅延ストレス度、反芻度、反応への強迫度、責任度を尋ねる。	27	健常群
2	Summerfeldt et al. (2014)	Obsessive-Compulsive Trait Core Dimensions Questionnaire (OC-TCDQ)	強迫的な行動の動機である害の回避 (Harm avoidance) と不完全感 (incompleteness) について、各10個の計20項目に回答を求める。	22	両方
3	Thordarson et al. (2004)	The Vancouver obsessional compulsive inventory	「洗浄強迫」、「確認強迫」、「強迫観念」、「ため込み」、「Just Right Experiences」、「不決断」の6因子の計55項目からなる。	6	臨床群
4	Abramowitz et al. (2010)	Dimensional Obsessive-Compulsive Scale	「洗浄強迫」、「危害と間違いへの責任」、「受け入れがたい思考」、「対称/不完全感」の4次元で、各症状にかかる時間や苦痛について尋ねる。	3	両方
5	Bamber et al. (2002)	Short Leyton Obsessional Inventory	過去2週間の強迫症状について20項目から尋ねる。「強迫行為」、「強迫観念/不完全感」、「洗浄」の3因子からなる。	2	両方
6	Mancini et al. (2008)	State-Not Just Right Experience-Questionnaire (State-NJRE-Q)	特定の課題終了後、課題中に体験した不完全感について、程度やストレスの強さ等、7つの指標を尋ねる。	1	健常群
7	Ravid et al. (2014)	Not Just Right Experience Questionnaire-Youth Version (NJRE-YV)	NJRE-QRの青年用として開発。NJRE-QRと同様の手続きで測定を行う。	1	健常群
8	Davine et al. (2019)	Picture-Based measure of Not just Right Experiences (PIC-NR10)	対称性や整理整頓に関する不完全感について、画像刺激を提示し測定する尺度。全10個の画像刺激に対し「どの程度不完全に見えるか」、「どの程度気になるか」、「どの程度ちょうど良いと感じるか」尋ねる。	1	健常群
9	Moritz et al. (2014)	Sensory Properties of Obsessions Questionnaire	強迫観念に関連した不完全感について、6つの感覚モダリティ (視覚、聴覚、触覚、体性感覚、嗅覚、味覚) からそれぞれどの程度体験しているか尋ねる。	1	臨床群

体験した不完全感について尋ねる形式を採っているが、不完全感は瞬間的な体験であるため、過去の体験を思い出して回答する形式は望ましくないと指摘し、写真を用いて不完全感を測定する Picture-Based measure of Not just Right Experiences (PIC-NR10) を開発した。PIC-NR10では、物の配置へのこだわりや対称性に関する強迫症状に関連する画像刺激を提示し、実際にその場で不完全感を生じさせながら測定を行っている。

(b) 半構造化面接による測定

続いて半構造化面接については、全8種類のうち、臨床群を対象としたものが5つ、健常群と臨床群の両方を対象としたものが3つであり、健常群のみを対象とした研究はなかった (Table 2)。

最も使用されていた面接法は Obsessive-Compulsive Core Dimensions interview (OC-CDI; Summerfeldt et al., 2014) であり、抽出された研究全体の内 5.26% が使用していた。OC-CDI ではまず、Y-BOCS のチェックリストを元に参加者が体験している強迫観念及び強迫行為を記入させた後、強迫的な行動を引き起こす危害回避と不完全感について説明を行う。その後、参加者が持つ強迫観念及び強迫行為に関して、危害回避と不完全感の程度について回答を求める。OC-CDI は、原版である英語版の他にスウェーデン語版も開発されていた (Cervin & Perrin, 2019)。

その他の半構造化面接による測定法も、OC-CDI のように特定の強迫症状における動機を尋ねる形式を取るものが多く (Starcevic et al., 2011; Sibrava et al., 2016)、特に Wahl et al. (2008) や Salkovskis et al. (2017) は、実

際に参加者が体験したことのある特定の強迫的な行動について、その強迫的な行動の詳しい順序や状況、強迫的な行動をやめる理由などについて質問し、強迫的な行動の動機について尋ねる形式をとっていた。

(c) 特定の課題を用いた測定

続いて課題を用いた測定については、全4種類のうち、すべてが健常群を対象としたものであった (Table 3)。多く使用されていた方法は Coles et al. (2005) の Experimental Measurement と Summers et al. (2014) の課題であり、抽出された研究全体の内どちらも 3.95% の研究で使用されていた。

Coles et al. (2005) は、参加者を実験室に誘導し、不完全感を誘発する刺激として「乱雑な本棚」、「汚れた流し台」、「ひじ掛けのない椅子」等を用意し、それぞれの刺激に注意を向けてもらい、その時の「不快感」、「何かをしたいと思う程度」を 0~100 で評定させる。さらに「何か悪いことが起こるかもしれないという考えが生起するかどうか」についても合わせて尋ねていた。Summers et al. (2014) では、参加者に対して「今どのくらい不快、緊張、またはちょうど良い感じではないですか?」と尋ね、0~100 で評定を求める。その後、視覚、触覚、聴覚課題を実施する。まず視覚課題では、参加者は散乱したテーブルに注意を向けるように指示される。机の上には、しわくちャのノート、雑誌、ペン、クリップなどの日用品が散らばっており、参加者は、散乱したテーブルを 10 秒間見た後、テーブルを見たときの不快感及びテーブルを整理したいという衝動を回答する。触覚課題は二つあり、一つ目は参加者にオーバーサイズの

Table 2
不完全感尺度一覧 (半構造化面接)

No.	著者	尺度の名称	尺度の内容	使用数	調査対象
1	Summerfeldt et al. (2014)	Obsessive-Compulsive Core Dimensions interview	Y-BOCS のチェックリストを記入した後、害への回避と不完全感の概念を説明し、チェックした強迫症状における害への回避と不完全感について尋ねる。	4	両方
2	Goodman et al. (1989)	Yale-Brown Obsessive-Compulsive scale	強迫観念と強迫行為に関する全 58 項目に回答を求め、該当する症状について、強迫観念と強迫行為ごとに 1 日の頻度、日常生活での障害度、苦痛度、抵抗度、コントロール度について尋ねる。	3	臨床群
3	Starcevic et al. (2011)	—	Y-BOCS によって認められた強迫行為について、実行する理由を 7 つの質問によって尋ねる。	1	臨床群
4	Wahl et al. (2008)	—	参加者が体験している洗浄場面を想起させ、洗浄動作の詳しい順序や、参加者が洗浄行為をやめた判断理由等を尋ねる。	1	両方
5	Schreck et al. (2021)	—	臨床医によって、参加者の強迫症状が危害の回避と不完全感のどちらで生じているのか評価を行う。	1	臨床群
6	Salkovskis et al. (2017)	—	体験した確認強迫の場面を想起させ、その確認行為をやめる理由を尋ねる。	1	両方
7	Sibrava et al. (2016)	—	参加者が持つ強迫観念について尋ね、その動機について尋ねる。	1	臨床群
8	van Schalkwyk et al. (2016)	—	体験している強迫観念の種類やそれらへの対処などの 5 つの質問に回答してもらう。	1	臨床群

白衣を着せ、左右対称にボタンを付けてもらい、片方の袖を肘までまくり上げた状態で10秒間立ってもらい、不快感とコートを整えたいという衝動を尋ねる。二つ目は参加者に湿ったウェットティッシュを渡し、利き手でない方の手の甲のみを一回拭かせることで、利き手とアンバランスな感覚を作り出し、その後不快感と手を拭きたいという衝動を尋ねた。聴覚課題では、ギターとピアノで不協和に演奏された童謡を1分20秒間聞かせ、不快感とそれをなくしたい衝動を尋ねるといった方法を行っていた。

その他の課題としては、聴覚刺激を用いて不完全感を生じさせる課題 (Buse et al., 2015) や単語の暗記課題において、単語の想起の途中で参加者に時間切れを告げることで不完全感を誘発する課題 (Fornes-Romero et al., 2017) が用いられていた。

(d) 複数の手法を組み合わせた測定

抽出された論文の中で、これまで述べた測定法を複数使用した研究も存在し、質問紙と課題を併用した研究が6件、質問紙と半構造化面接を併用した研究が1件抽出された。全7件のうち、測定の種類による違いについて検討した研究が4件であり、その内2件が測定の種類の違いによって研究結果が異なっていた (Table 4)。この原因として、測定種によって不完全感の異なる側面が反映されている可能性が指摘されている (Mathes et al., 2019)。

3. 不完全感への心理学的介入に関する研究

不完全感への心理学的介入法の開発や効果検証を実施した研究として、計4件が抽出された。その内、Cervin & Perrin (2021) と Mathes et al. (2019) の2件では、不完全感の高さが治療効果を減衰させているという結果が得られた。一方、残りの Coles & Ravid (2016) と Taboas & McKay (2020) の2件では、不完全感に対する治療効果が認められていた。

Cervin & Perrin (2021) は、スウェーデンの精神科病院の外來で実施された治療プロジェクトに参加した強迫症患者111名を対象に、曝露反応妨害法を用いた治療を行い、質問紙及びインタビュー調査を実施した。その結果、不完全感の高さが曝露反応妨害法による治療効果に負の影響を与えていた。さらに、Mathes et al. (2019) においても、Summers et al. (2014) の課題によって測定を行った不完全感の高さが、曝露反応妨害法による洗浄強迫の治療反応の不良を予測し、不完全感の高さによって曝露反応妨害法の効果が低減されることが示された。同じく曝露反応妨害法を介入技法として用いた研究に Coles & Ravid (2016) があるが、この研究では強迫症における不完全感に対して理解の深い治療者が参加したことと、患者に対して不完全感によって生じる強迫症状の存在について尋ね、不完全感に焦点を当てた曝露を行うなど、不完全感を曝露対象として治療に取り入れていたことが特徴的であった。この研究の強迫症患者45名を

Table 3
不完全感尺度一覧 (課題による測定)

No.	著者	尺度の名称	尺度の内容	使用数	調査対象
1	Coles et al. (2005)	Experimental Measurement	参加者に不完全感を誘発する刺激 (乱雑な本棚、汚れた流し台等) に注意を向けさせ、不快感、何かをしたいと思う程度、何か悪いことが起こるかもしれないという考えについて尋ねる。	3	健常群
2	Summers et al. (2014)	—	まず「今どのくらい不快、緊張、またはちょうど良い感じではないですか?」と尋ね、その後視覚課題を一つ、触覚課題を二つ、聴覚課題を一つ行い、それぞれの課題後に同様の質問を尋ねる。	3	健常群
3	Buse et al. (2015)	Experimental violation of harmonic expectancies	和音と非協和音を提示し、それぞれを聞いた後程度 (valence)、覚醒 (arousal)、刺激 (irritation)、NJRE、不完全感 (incompleteness) などの主観的な体験について回答を求める。	1	健常群
4	Fornes-Romero et al. (2017)	—	パソコンの画面に18の単語が各6個の3セット映され、2分後にスライドが消えた後、思い出せる単語をすべて紙に書くように指示される。非誘導群では十分な時間が与えられるが、誘導群では、作業の途中で時間切れを告げ、その時生じた不完全感を測定する。	1	健常群

Table 4
測定法の違いを検討した研究

No.	著者	尺度① (質問紙)	尺度② (課題)	違い
1	Cogle et al. (2011)	NJRE-QR	Coles et al. (2005)	なし (ともに手洗い行動を予測)。
2	Cogle et al. (2013)	NJRE-QR, OC-TCDQ	Coles et al. (2005)	なし (ともに確認行動を予測)。
3	Mathes et al. (2019)	OC-TCDQ	Summers et al. (2014)	治療反応の予測に違いが見られた。
4	Summers et al. (2014)	NJRE-QR, OC-TCDQ	Summers et al. (2014)	強迫症状との関連性に違いが見られた。

対象とした介入の結果からは、治療後に不完全感の頻度や重症度が有意に低下したと、強迫症状の変化と不完全感の変化との間には中程度の相関が見られた ($r = .65$) ことを報告している。そのため、治療の際に、不完全感に焦点を当てた曝露を実施することが重要であると指摘している。しかし、問題点として、対象者数が少なかったため、強迫症状の内容（確認強迫や洗浄強迫など）について検討されていないことが挙げられていた。一方 Taboas & McKay (2020) は、大学生を対象に不完全感を対象とした曝露を行った結果、曝露の効果は危害回避が高いほど大きくなっており、曝露のターゲットが不完全感ではなく危害回避であった可能性が示唆されている。Coles & Ravid (2016) でも、治療対象となった強迫症患者達は不完全感だけでなく危害回避も高いスコアであり、さらに治療前後において危害回避も有意に減少していた。そのため、この研究においても不完全感ではなく危害回避に対して曝露が効果的であった可能性がある。

IV. 考察

1. 不完全感の測定法に関する研究動向と課題

本研究のレビューを通して、不完全感の測定方法として質問紙、半構造化面接、課題による測定の3種類が抽出された。中でも質問紙が最も多く使用されており、特にNJRE-QR (Coles et al., 2005) とOC-TCDQ (Summerfeldt et al., 2014) が多く使用されていた。しかし、これらの尺度の項目を詳しく見ると、危害回避と不完全感のどちらの動機によって引き起こされた強迫行動なのか判別が難しい項目が存在している。例えばNJRE-QRには、「家のドアの鍵をかけているとき、鍵がちゃんとかかっているように感じたことがある」という不完全感を測定するための項目がある。しかし、不完全感によって鍵がちゃんとかかっていると感じる場合もあれば、危害回避に特徴的な不安によって「ちゃんと鍵がかかっているかどうかだろう」と感じた結果である可能性も考えられる。OC-TCDQでは、不完全感を測定する項目に「ある特定のことで物事をしないと、しっくりこないと感じる」といった質問があるが、NJRE-QRと同様、「特定のことで物事をしないと、何か不吉なことが起こるのではないか」といった危害回避に特徴的な不安が背景に存在する可能性を否定できない。一方Sibrava et al. (2016) やSalkovskis et al. (2017) では、特定の強迫症状における危害回避と不完全感の強さを尋ねることで、危害回避と不完全感のどちらによって強迫症状が引き起こされるか測定を行っている。危害回避と不完全感の個人の特徴を知るためには、一方の動機に対するもう片方の動機の相対的な強さを評価する必要があるとされる (Summerfeldt et al., 2014)。実際、危害回避と不完全感の相関につ

いて、健常群及び臨床群を対象とした研究において高い正の相関が見られ、健常群においても危害回避と不完全感の平均値が高いことから (Ecker et al., 2014; Lee & Wu, 2019)、健常群及び臨床群ともに不完全感に危害回避が伴いやすいと考えられる。そのため、不完全感に質問紙によって不完全感を測定する際には、特定の強迫症状における危害回避と不完全感の両方を測定する必要があると考えられる。

またDavine et al. (2019) は、既存の質問紙について、過去の不完全感体験を想起させる点が問題であると指摘し、画像刺激を提示することで生じた不完全感を測定するPIC-NR10を開発した。しかし、この尺度は整理整頓や対称性のこだわりの強迫症状に限定されており、確認強迫や洗浄強迫など、その他の強迫症状において生じる不完全感を測定できない。この測定方法では、実際にその場で不完全感を生じさせることで、不完全感の強さを測定しているが、これらの測定法の対象者はいずれも大学生などの健常群であった。臨床群を対象とする場合、実際に不完全感をその場で生じさせることで新たな強迫的な行動を誘発する可能性や強い不快感が生じるリスクが高いため、安全性において課題があると考えられる。

不完全感を複数の測定法から測定した研究も存在し、質問紙と課題という測定種の違いによって、結果が異なる研究が見られた。この原因として、使用した課題の性質が考えられる。異なる結果が得られた3つの研究では、いずれも不完全感を測定する課題において、知覚や触覚、聴覚など複数の感覚から不完全感を測定していた (Summers et al., 2014)。

以上より、不完全感を感覚別に分類することで、より詳細に不完全感を捉え、質問紙では捉えることができない特徴を捉えることができると考えられる。しかし、先ほど述べたように、課題によって不完全感を生じさせることはリスクがあり、さらに様々な感覚から不完全感を生じさせることは、よりリスクを大きくすることにつながる可能性が考えられる。そのため、不完全感を測定する際には、質問紙によって感覚別に不完全感を測定することが考えられる。より詳細に不完全感を分類することができ、従来の質問紙では捉えられない特徴を捉えることができると考えられる。

2. 不完全感への心理学的介入法

本研究では、不完全感に介入を行った研究が4件抽出され、不完全感に対する効果が認められた研究が2件、不完全感の高さが治療効果を減衰させた研究が2件であり、研究間で介入効果に差が見られた。介入効果が認められた要因として、以下の二つが考えられる。

まず、危害回避の変化に伴って不完全感が変化していた可能性が考えられる。Taboas & McKay (2020) では、

危害回避の高さが曝露の効果の高さを予測していたため、まず曝露によって危害回避が低減し、それに伴い不完全感が低減した可能性が指摘されている。実際に介入に効果が見られた Coles & Ravid (2016) では、不完全感と同様に危害回避が高い参加者が多く見られた。そのため、曝露は危害回避と不完全感の両方が高い人々には有効であると考えられるが、危害回避の高さを有さず不完全感のみが高い人々にも同様の介入効果が見られるかどうかは検証されていないと考えられ、今後介入にあたり、危害回避と不完全感のアセスメントを行い、両者の組合せの観点から対象者を選定し検討を行う必要がある。

次に、治療者による影響が考えられる。Coles et al. (2016) の研究では、不完全感の研究及び実践に精通した臨床家達が治療者として参加していた。そのため、不完全感による強迫症状をアセスメントし、それらの症状を曝露対象に取り入れていたことで、不完全感の低減につながったことが考えられる。そのため、今後の課題として、不完全感を適切にアセスメントするための測定法の開発が望まれる。

また、本研究では、不完全感への介入法を検討しているすべての研究において曝露反応妨害法が用いられていた。しかし、曝露反応妨害法は主に不完全感によって強迫症状が引き起こされる患者に対して適用が難しいとされている (Foa et al., 1995)。そのため、今後の研究では、曝露反応妨害法以外の心理療法の効果についても検討する必要がある。

3. まとめと今後の展望

本研究では、強迫に関する研究で注目されるようになった不完全感について、その測定方法と心理学的介入法についてレビューを行い、現在多く用いられている測定方法とその問題点及び有効な心理学的介入法について検討を行った。その結果、測定方法については、質問紙、半構造化面接、課題の3種類の測定法が抽出され、今後の研究では質問紙の改良による感覚別の測定を行っていくことが必要であると考えられた。心理学的介入法については、危害回避と不完全感の両面からアセスメントを行った上での介入効果の検証、不完全感を曝露対象とする際の治療上の工夫の検討に加え、曝露反応妨害法以外の治療法による効果の検討が求められており、これらの課題に対する研究を推進することが必要であると考えられた。さらに、アセスメントでは知覚や触覚など、感覚の違いによって不完全感の異なる側面が反映されており、感覚別に有効な介入法が異なる可能性も考えられる。そのため、アセスメントや心理学的介入法において身体における感覚の特徴を含めて検討することで、より個人に合わせた有効な介入法の開発に役立つことが考えられる。また、不完全感の連続性について、先行研究で

は健常群と臨床群における不完全感を比較し、不完全感の連続性が確認されている (Horncastle et al., 2022)。一方、不完全感が一定のラインを越えて強くなると症状化することが指摘されており (Belloch et al., 2016)、さらに Fornés-Romero et al. (2017) は、臨床群と健常群の不完全感の違いについて、不完全感を抑制することの困難さを挙げている。そのため、臨床群と健常群との間の不完全感の強さの違いによって、不完全感に対する不快な感覚や不完全感への対処の難しさが異なってくるものが考えられる。従って、今後はそうした不完全感の高まりによって生じてくる質的な違いについても検討する必要がある。

謝辞

本研究は、JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム JPMJSP2136 の支援を受けたものです。本研究を執筆するにあたり、たくさんの貴重なご助言、ご協力を頂きました九州大学の小澤永治先生、黒木俊秀先生、増田健太郎先生、ならびに研究室の皆様から感謝申し上げます。

引用文献

- Abramowitz, J. S. (2006). The psychological treatment of obsessive-compulsive disorder. *The Canadian Journal of Psychiatry*, **51** (7), 407-416.
- Abramowitz, J. S., Deacon, B. J., Olatunji, B. O., Wheaton, M. G., Berman, N. C., Losardo, D., Timpano, K. R., McGrath, P. B., Riemann, B. C., Adams, T., Björgvinsson, T., Storch, E. A., & Hale, L. R. (2010). Assessment of Obsessive-Compulsive Symptom Dimensions: Development and Evaluation of the Dimensional Obsessive-Compulsive Scale. *Psychological Assessment*, **22** (1), 180-198.
- American Psychiatric Association (2013). *Diagnostic and statistical manual of mental disorders, 5th edition: DSM-5*. Washington, DC: American Psychiatric Publishing.
- 高橋三郎・大野 裕 (監訳) 柴谷俊之・神庭重信・尾崎紀夫・三村 将・村井俊哉 (訳) (2014). DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き. 医学書院.
- Bamber, D., Tamplin, A., Park, R. J., Kyte, Z. A., & Goodyer, I. M. (2002). Development of a Short Leyton Obsessional Inventory for Children and Adolescents. *Journal of the American Academy of Child & Adolescent Psychiatry*, **41** (10), 1246-1252.
- Belloch, A., Fornés, G., Carrasco, A., López-Solá, C., Alonso, P., & Menchón, J. M. (2016). Incompleteness and not just experiences in the explanation of Obsessive-Compulsive Disorder. *Psychiatry Research*, **236**, 1-8.

- Buse, J., Dörfel, D., Lange, H., Ehrlich, S., Münchau, A., & Roessner, V. (2015). Harmonic expectancy violations elicit not-just-experiences: A paradigm for investigating obsessive-compulsive characteristics? *Cognitive Neuroscience*, **6** (1), 8-15.
- Carrasco, Á., & Belloch, A. (2013). Algo no está bien: Una nueva lectura de la duda obsesiva. *Psicología Conductual*, **21** (2), 341-361.
- Cervin, M. & Perrin, S. (2021). Incompleteness and Disgust Predict Treatment Outcome in Pediatric Obsessive-Compulsive Disorder. *Behavior Therapy*, **52**, 53-63.
- Cervin, M. & Perrin, S. (2019). Measuring harm avoidance, incompleteness, and disgust in youth with obsessive-compulsive disorder and anxiety disorders. *Journal of Obsessive-Compulsive and Related Disorders*, **22**.
- Coles, M. E., Frost, R. O., Heimberg, R. G., & Rhéaume, J. (2003). "Not just right experiences": perfectionism, obsessive-compulsive features and general psychopathology. *Behaviour Research and Therapy*, **41**, 681-700.
- Coles, M. E., Heimberg, R. G., Frost, R. O., & Steketee, G. (2005). Not just right experiences and obsessive-compulsive features: Experimental and self-monitoring perspectives. *Behaviour Research and Therapy*, **43**, 153-167.
- Coles, M. E., Hart, A. S., & Schofield, C. A. (2012). Initial Data Characterizing the Progression from Obsessions and Compulsion to Full-Blown Obsessive Compulsive Disorder. *Cognitive Therapy and Research*, **36**, 685-693.
- Coles, M. E. & Ravid, A. (2016). Clinical presentation of not-just right experiences (NJREs) in individuals with OCD: Characteristics and response to treatment. *Behaviour Research and Therapy*, **87**, 182-187.
- Cogle, J. R., Fitch, K. E., Jacobson, S., & Lee, H-J. (2013). A multi-method examination of the role of incompleteness in compulsive checking. *Journal of Anxiety Disorders*, **27**, 231-239.
- Cogle, J. R., Goetz, A. R., Fitch, K. E., Hawkins, K. A. (2011). Termination of washing compulsions: A problem of internal reference criteria or 'not just right' experience? *Journal of Anxiety Disorders*, **25**, 801-805.
- Davine, T., Snorrason, I., Harvey, A. M., Lotfi, S., & Lee, H. (2019). Development of a Picture-Based Measure for "Not Just Right" Experiences Associated with Compulsive Sorting, Ordering, and Arranging. *Cognitive Therapy and Research*, **43** (1), Springer.
- Ecker, W., Gönner, S., & Wilm, K. (2011). The measurement of motivational dimensions of OCD: incompleteness and harm avoidance. *Psychotherapie, Psychosomatik, Medizinische Psychologie*, **61** (2), 62-69.
- Ecker, W., Kupfer, J., & Gonner, S. (2014). Incompleteness and harm avoidance in OCD, anxiety and depressive disorders, and non-clinical controls. *Journal of Obsessive-Compulsive and Related Disorders*, **3**, 46-51.
- Eng, G. K., Collins, K. A., Brown, C., Ludlow, M., Tobe, R. H., Iosifescu, D. V., & Stern, E. R. (2021). Dimensions of interoception in obsessive-compulsive disorder. *Journal of interoception in obsessive-compulsive disorder*, **27**, 100584.
- Foa, E. B., Abramowitz, J. S., Franklin, M. E., & Kozak, M. J. (1999). Feared consequences, fixity of belief, and treatment outcome in patients with obsessive-compulsive disorder. *Behavior Therapy*, **30** (4), 717-724.
- Fornés-Romero, G. & Belloch, A. (2017). Induced not just right and incompleteness experiences in OCD patients and non-clinical individuals: An in vivo study. *Journal of Behavior Therapy and Experimental Psychiatry*, **57**, 103-112.
- Ghisi, M., Chiri, L. R., Marchetti, I., Sanavio, E., & Sica, C. (2010). In search of specificity: "Not just right experiences" and obsessive-compulsive symptoms in non-clinical and clinical Italian individuals. *Journal of Anxiety Disorders*, **24**, 879-886.
- Goodman, W. K., Price, L. H., Rasmussen, S. A., Mazure, C., Fleischmann, R. L., Hill, C. L., Heninger, G. R., Charney, D. S. (1989). The Yale-Brown Obsessive Compulsive Scale. I. Development, use, and reliability. *Archives of General Psychiatry*, **46**, 1006-1011.
- Hellriegel, J. (2014). 'Not just right' (NJRE) in Obsessive-Compulsive Disorder: Is NJRE a Manifestation of Autistic Trait? *ULC Doctorate in Clinical Psychology*.
- Horncastle, T., Ludlow, A. K., & Gutierrez, R. (2022). Not just right experiences and incompleteness as a predictor of Obsessive Compulsive symptoms in clinical samples: A meta-analysis. *Journal of Obsessive-Compulsive and Related Disorders*, **35**, 1-6.
- Lee, S. R. & Wu, K. D. (2019). Feelings of incompleteness explain symptoms of OCD and OCPD beyond harm avoidance. *Journal of Obsessive-Compulsive and Related Disorders*, **21**, 151-157.
- Mancini, F., Gangemi, A., Perdighe, C., & Marini, C. (2008). Not just right experience: Is it influenced by feeling of guilt? *Journal of Behavior Therapy and Experimental Psychiatry*, **39**, 162-176.
- Mathes, B. M., Kennedy, G. A., Wilver, N. L., Carlton, C. N., & Cogle, J. R. (2019). A multi-method analysis of incompleteness in behavioral treatment of contamination-

- based OCD. *Behaviour Research and Therapy*, **114**, 1-6.
- Meyerholz, L., Irzinger, J., Withhöft, M., Gerlach, A. L., & Pohl, A. (2019). Contingent biofeedback outperforms other methods to enhance the accuracy of cardiac interoception: A comparison of short interventions. *Journal of Behavior Therapy and Experimental Psychiatry*, **63**, 12-20.
- Miguel, E. C., Coffey, B. J., Baer, L., Savage, C. R., Rauch, S. L., & Jenike, M. A. (1995). Phenomenology of international repetitive behaviors in obsessive-compulsive disorder and Tourette's disorder. *The Journal of Clinical Psychiatry*, **56**, 246-255.
- 上岡洋晴・金子善博・津谷喜一郎・中山健夫・折笠秀樹 (2021). 「PRISMA 2020 声明：システマティック・レビュー報告のための更新版ガイドライン」の解説と日本語訳. *薬理と病理*, **49** (6), 831-842.
- Moritz, S., Hörmann, C. C., Schröder, J., Berger, T., Jacob, G. A., Meyer, B., Holmes, E. A., Späth, C., Hautzinger, M., Lutz, W., Rose, M., & Klein, J. P. (2014). Beyond words: Sensory properties of depressive thoughts. *Cognition and Emotion*, **28** (6), 1047-1056.
- Murray, C. J. & Lopez, A. D. (1996). Evidence-based health policy—lessons from the global burden of disease study. *Science*, **274**, 740-743.
- Nicholson, E., Dempsey, K., & Barnes-Holmes, D. (2014). The role of responsibility and threat appraisals in contamination fear and obsessive-compulsive tendencies at the implicit level. *Journal of Contextual Behavioral Science*, **3** (1), 31-37.
- Pitman, R. K. (1987). Pierre Janet on Obsessive-Compulsive Disorder (1903): Review and commentary. *Archives of General Psychiatry*, **44**, 226-232.
- Prado, H. S., Rosário, M. C., Lee, J., Hounie, A. G., Shavitt, R. G., & Miguel, E. C. (2008). Sensory phenomena in obsessive-compulsive disorder and tic disorders: a review of the literature. *CNS Spectrum*, **13** (5), 425-432.
- Rasmussen, S. A., & Eisen, J. L. (1992). The epidemiology and differential Diagnosis of Obsessive-Compulsive Disorder. In I. Hand, W. K. Goodman, & U. Evers, (Eds.), *Zwangsstörungen / Obsessive-Compulsive Disorders. Die Reihe dupbar med communication wird / Seties dupbar med communication* (pp. 1-14). Berlin, Heidelberg: Springer.
- Ravid, A., Franklin, M. E., Khanna, M., Storch, E. A., & Coles, M. E. (2014). "Not Just Right Experiences" in Adolescents: Phenomenology and Associated Characteristics. *Child Psychiatry & Human Development*, **45**, 193-200.
- Reid, J., Storch, E., & Lewin, A. (2009). "Just Right" OCD Symptoms. International OCD Foundation (IOCDF). USF Health. Making Life Better.
- Salkovskis, P. M. (1985). Obsessional-compulsive problems: A cognitive-behavioral analysis. *Behaviour Research and Therapy*, **23** (5), 571-583.
- Salkovskis, P. M., Millar, J., & Gregory, J. (2017). The Termination of Checking and the Role of Just Right Feeling: A Study of Obsessional Checkers Compared with Anxious and Non-clinical Controls. *Behavioural and Cognitive Psychotherapy*, **45**, 139-155.
- Schreck, M., Georgiadis, C., Garcia, A., Benito, K., Case, B., Herren, J., Walther, M., & Freeman, J. (2021). Core Motivations of Childhood Obsessive-Compulsive Disorder: The Role of Harm Avoidance and Incompleteness. *Child Psychiatry & Human Development*, **52**, 957-965.
- Schwartz, J. M. (1999). A role for volition and attention in the generation of new brain circuitry: Toward a neurobiology of mental force. *Journal of Consciousness Studies*, **6**, 115-142.
- Sibrava, N. J., Boisseau, C. L., Eisen, J. L., Mancebo, M. C., & Rasmussen, S. A. (2016). An empirical investigation of incompleteness in a large clinical sample of obsessive compulsive disorder. *Journal of Anxiety Disorders*, **42**, 45-51.
- Starcevic, V., Berle, D., Brakoulias, V., Sammut, P., Moses, K., Milcevic, D., & Hannan, A. (2011). Functions of compulsions in obsessive-compulsive disorder. *Australian and New Zealand Journal of Psychiatry*, **45** (6), 449-457.
- Summerfeldt, L. J. (2004). Understanding and Treating Incompleteness in Obsessive-Compulsive Disorder. *Journal of Clinical Psychology*, **60** (11), 1155-1168.
- Summerfeldt, L. J., Kloosterman, P. H., Antony, M. M., & Swinson, R. P. (2014). Examining an obsessive-compulsive core dimensions model: Structural validity of harm avoidance and incompleteness. *Journal of Obsessive-Compulsive and Related Disorders*, **3**, 83-94.
- Summers, B. J., Fitch, K. E., & Cogle, J. R. (2014). Visual, Tactile, and Auditory "Not Just Right" Experiences: Associations With Obsessive-Compulsive Symptoms and Perfectionism. *Behavior Therapy*, **45**, 678-689
- Szechtman, H., & Woody, E. (2004). Obsessive-compulsive disorder as a disturbance of security motivation. *Psychological Review*, **111**, 111-127.
- 高田沙和子 (2012). 青年期女性における強迫傾向についての検討—強迫的信念とじっくりこない感覚との関連—. *臨床発達心理学研究*, **11**, 28-39.
- Taboas, W. & McKay, D. (2020). Inducing and manipulating sensations of incompleteness. *Bulletin of the Menninger*

- Clinic*, **84** (3), 237-263.
- Taylor, S., McKay, D., Crowe, K. B., Abramowitz, J. S., Conelea, C. A., Calamari, J. E., & Sica, C. (2014). The sense of incompleteness as a motivator of obsessive-compulsive symptoms: *An empirical analysis of concepts and correlates*. *Behavior Therapy*, **45** (2), 254-262.
- Thordarson, D. S., Radomsky, A. S., Rachman, S., Shafran, R., Sawchuk, C. N., & Hakstian, A. R. (2004). The Vancouver Obsessional Compulsive Inventory (VOCI). *Behaviour Research and Therapy*, **42** (11), 1289-1314.
- Van Schalkwyk, G., Bhalla, I. P., Griep, M., Kelmendi, B., Davidson, L., & Pittenger, C. (2016). Toward Understanding the Heterogeneity in OCD: Evidence from narratives in adult patients, *Australian & New Zealand Journal of Psychiatry*, **50** (1), 74-81.
- Wahl, K., Salkovskis, P. M., & Cotter, I. (2008). 'I wash until it feels right' The phenomenology of stopping criteria in obsessive-compulsive washing. *Journal of Anxiety Disorders*, **22**, 143-161.
- 矢野宏之・黒木俊秀 (2019). Salkovskis の強迫症モデル及び治療技法に関する研究の展望. 九州大学総合臨床心理研究, **10**, 77-82.
- Yoris, A., García, A. M., Traiber, L., Santamaría-García, H., Martorell, M., Alifano, F., ... Sedeño, L. (2017). The inner world of overactive monitoring: neural markers of interoception in obsessive-compulsive disorder. *Psychological Medicine*, **47**, 1957-1970.